心を掻き立てる
「スタディハウス」

4人の男の子が巣立ってかつての喧騒が消えて久しい。
何かと持て余し気味の我が家を　もう一度心を掻き立てるような暮らしに戻したいとの想いが頭をもたげ、仕事柄持ち合わせた好奇心も手伝って庭先にコンパクトな「終の棲家」を、と思い立ったのが2016年。

どうせなら「シンケンスタイルとは何かを〝議論する場にする〟」事を申し合わせて計画はプランナー志望の社員(自由参加)の設計コンペからスタートした。

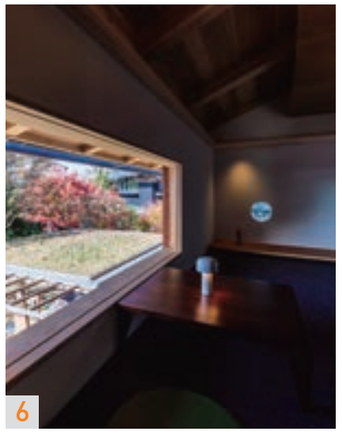
基礎工事までは順調に進んだものの、お客様優先の社風もあってか?その後の工事は先へ先へと送られて…　計画から6年半の歳月を経て2022年の年の瀬、新旧の2棟共に何とか住まいの体をなして来た。

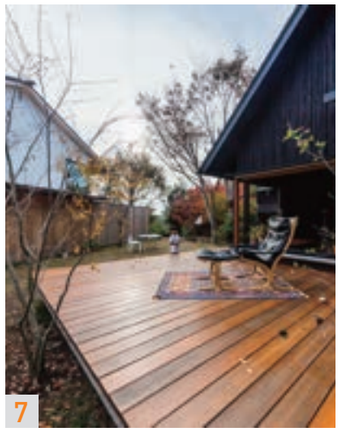
2棟の建築には次の世代を担うスタッフへのメッセージとして随所にシンケンイズムが盛り込まれ、皆でそれを「研究」「分析」「吟味」「考察」する、じっくりと「観察する家」として「STUDY HOUSE」と命名した。

住まい創りを単に、意匠　デザイン　素材と構造　使い勝手や温熱環境ごと　と考えるに留めず、人間の「人情の機微」を知り、これを深める場として活用してもらいたい。

住まいの究極の目的は
「住まい手の心を掻き立て 悦びで満たすこと」
その設えを持って「シンケンスタイル」と
我々は呼ぶことにしよう。

5


6


7

はじめに引いた線

2軒の住まいの間に明確な境界は無い、が心理的には互いに超えたくない線がある。
計画は2つの世帯をどう繋げるか? その塩梅を押し測り、一本の線を引くことから始まった。
この線はこれからの長い暮らしの要の役割を持つと考える。

概要	
建設地	鹿児島市吉野町
敷地面積	771.45㎡（233.36坪）
1階床面積	108.05㎡（32.68坪）
2階床面積	51.24㎡（15.50坪）
延床面積	159.29㎡（48.18坪）
構造	木造軸組みパネル工法
屋根	SGL鋼板葺き
外壁	STO+ロータサン
内部床	吉野杉 熱圧加工
内部壁	モイス
サッシ	プロファイルウィンドー
設備	そよ風

常緑樹
落葉樹

図面上の番号は、写真の撮影位置です

1

2

3

4

SINKEN STYLE